

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

リウマチ性多発筋痛症における臨床的特徴の解析

2. 研究の対象患者

旭中央病院にてリウマチ性多発筋痛症 (PMR) と診断された症例

3. 研究の対象期間

2008年1月1日～2018年12月31日

4. 研究の概要

リウマチ性多発筋痛症 (Polymyalgia Rheumatica 以下PMR) は高齢者に発症し、両肩関節付近や腰部大腿部付近の疼痛とこわばり感、倦怠感を特徴とする炎症性疾患である。日本リウマチ学会における関節リウマチとの鑑別を要する疾患群の中で鑑別が困難とされる疾患の一つであり、さらに巨細胞性血管炎と合併例もあり、高齢化が進む本邦では注意を要する疾患と言える。診断に関しては1979年に提唱されたBirdの診断基準及び2012年にヨーロッパリウマチ学会 (EULAR) 及びアメリカリウマチ学会 (ACR) から関節超音波を用いた暫定的診断 (分類) 基準案が発表されたが、PMRは高齢者に多い疾患であることから悪性腫瘍や感染症の除外も必要であり、診断に関しても注意を要する。一方、治療に関してはステロイド剤が著効するが、ステロイド剤の減量に伴い再発する例が多く、メトトレキサート (MTX)、TNF阻害薬を併用する症例も多い。高齢者に多く、ステロイド剤や場合によってはMTXやTNF阻害薬を投与するため感染症や骨代謝・脂質代謝異常の副作用もあり初期治療量や再発リスクに関しては不明な点が多い。

本研究では、高齢者に多いPMRに関して臨床症状、検査所見、治療を後方視的に解析し、再発リスクやステロイド剤の初期治療量を解析する。この研究によりステロイド剤の適切な投与量と再発リスクが明らかとなり、免疫抑制剤や生物学的製剤の投与を可能な限り避けることが可能となる。

5. 研究実施予定期間

2019年1月16日～2020年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

研究対象症例の背景及び血液検査、尿検査、画像検査、生理検査などの検査結果ならびに治療内容 (ステロイド総投与量を含む)、転帰

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

- ・研究責任者：アレルギー膠原病内科 加々美 新一郎
- ・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111 (代)